

2025年12月

パキスタン・ナショナル銀行説明資料
銀行法施行規則第19条に基づく
業務及び財産の状況に関する説明

パキスタン・ナショナル銀行
東京支店

パキスタン・ナショナル銀行東京支店に係る事項

1. 東京支店の概要

イ. 東京支店の代表者の氏名及び役職名

東京支店長 **MR. ZAHEERUDDIN BABAR**
(ザヒールデイン ババール)
COUNTRY MANAGER

ロ. 東京支店の開設日 昭和 52 年(1977 年)7 月 1 日
銀行営業免許取得日 昭和 52 年(1977 年)4 月 11 日
外国為替業務認可日 昭和 52 年(1977 年)6 月 27 日

ハ. 住所及び電話番号

東京都港区三田 1 丁目 4 - 2 8 三田 国際ビル 2 2 階
電話番号 03-5444-2200(代表)

ニ. 現陣容

17 名 (内パキスタン人 5 名、台湾人 1 名、フィリピン人 1 名)

2. 主要業務内容及び営業の状況

イ. 主要業務内容

当行はパキスタンの国立商業銀行であり、唯一日本に支店があるパキスタンの銀行です。当支店の主な業務目的は日本とパキスタン及び他のアジア諸国との間の貿易や送金の決済を行うことです。また日本政府からパキスタン政府への援助資金等の受入を支援する役割も果たしています。パキスタンにとって日本は重要な貿易相手国の一つであり、当店の主要な業務は輸出為替買取、及び郷里送金含む外国送金を行う外国為替業務です。当店の主要な貿易取引相手国はパキスタン、バングラデッシュ、スリランカ、アラブ首長国連邦等のアジア諸国となります。また負債の主な項目はコルレス先預金、本支店借入となります。当店業績はパキスタンやそれらのアジア諸国及び日本の経済情勢に大きく影響されます。

ロ. 営業の状況

東京支店は、1977 年 7 月に開設以来、初年度を除き毎期決算にて利益計上を続けておりましたが、円金利の低下及び被仕向け海外送金業務の減少により 2019 年度以降は赤字を計上した時期もありましたが、直近 2 期は、バングラデッシュやスリランカ等のアジア新興国との貿易取引拡大等を背景に黒字を計上しております。

| | | | | |
|-----------|-------|--------|-------|---------------------------------|
| 有 価 証 券 | 1,648 | 1,947 | 299 | 為替レートの変動及び市場価格の上昇 |
| 外 国 為 替 | 2,609 | 3,605 | 996 | 買入外国為替の増加 |
| 預 け 金 | 2,500 | 4,025 | 1,525 | 国内保留資産(日銀預け金)の増加 |
| 支 承 諾 見 返 | 736 | 86 | △650 | 輸出信用状へのコンファメーション付与の減少 |
| 総 資 産 | 7,895 | 10,001 | 2,106 | 預け金、保有有価証券残高及び外国為替の増加や支払承諾取引の減少 |

二. 損益計算書(在日分)

増減及び事由

(単位：百万円)

| | 2024年 12月 | 2025年 12月 | 増減 | 増減事由 |
|------------------------|-----------|-----------|-----|-----------------------------------|
| 経 常 収 益 | 540 | 595 | 55 | 貿易書類取引及び外国為替取引の増加による利息の増加 |
| 経 常 費 用 | 503 | 424 | △79 | 本支店勘定取引の減少による資金調達費用の減少 |
| 経 常 利 益 | 37 | 171 | 134 | |
| 特 別 利 益 | - | - | 0 | |
| (税 引 前) 当 期 純 利 益 | 37 | 171 | 134 | 貿易書類取引及び外国為替取引の増加、またそれに伴う資金運用益の増収 |

ホ. 本邦における営業店舗

大阪支店

設立 平成4年(1992)8月25日

住所 大阪府大阪市中央区西心斎橋一丁目13番15号

三栄心斎橋ビル4階

支店長 MR. MOHSIN BASHIR

(モホシン バシール)

Branch Manager of Osaka

現陣容 10名(内 パキスタン人3名)

へ. 対処すべき問題

当店の収益は、日本・パキスタン両国の経済情勢に大きく左右されます。当店としては、主要収入源である輸出為替業務と関連の深いパキスタンのコルレス銀行や日本に所在する貿易業者に対して営業推進を行い輸出為替業務の増加を図っております。

当行の基本方針として、パキスタン国営銀行の海外支店という立場を自覚しつつ、マネーロンダリング対策を柱にコンプライアンスを最重視し、法令はもとより社内規程、業務マニュアル、就業規則、企業倫理、及び社会規範に至るすべてのルールを遵守することを、業務遂行上の最重要課題の一つと位置づけ、全行員が取り組んでおります。特にマネーロンダリング対策、反社会勢力対策として、既存の名前自動検索システムに加えて、勘定系システムから取引監視情報を出力しモニタリングの強化を行っております。

大阪支店の陣容は、現状支店長を含め10名の体制で東京支店同様パキスタン、バングラデッシュ、スリランカ、アラブ首長国連邦等のアジア諸国向外国為替取引(輸出及び送金)が主な業務内容であります。適宜東京支店が支援し、双方で十分な連携を取りながら業務推進を行っております。

ト. 指定紛争解決機関(ADR)への加入

東京支店・大阪支店が加入している指定紛争解決機関は一般社団法人全国銀行協会、連絡先は全国銀行協会相談室です。

電話 0570-017109 又は 03-5252-3772

当行は国際銀行協会及び全国銀行協会へ加入しその情報収集に努めております。

なお、東京支店は2022年5月に都内の三田国際ビルへ移転致しました。

当店では、今後とも積極的にディスクロージャーの充実に努めて参ります。

3. 直近の2営業年度の貸借対照表及び損益計算書(在日分)

貸借対照表

(単位 百万円)

| | 2024年12月 | 2025年12月 | 増減 | | 2024年12月 | 2025年12月 | 増減 |
|--------|----------|----------|-------|--------------|----------|----------|-------|
| 現金預け金 | 2,516 | 4,040 | 1,524 | 預金 | 1,172 | 2,526 | 1,354 |
| コールローン | - | - | - | 譲渡性預金 | - | - | 0 |
| 買入金銭債権 | - | - | - | コールマネー | - | - | 0 |
| 商品有価証券 | - | - | - | 売渡手形 | - | - | 0 |
| 金銭の信託 | - | - | - | 借入金 | - | - | 0 |
| 有価証券 | 1,648 | 1,947 | 299 | 外国為替 | 106 | 178 | 72 |
| 貸出金 | 86 | 60 | △26 | その他負債 | 82 | 122 | 40 |
| 外国為替 | 2,609 | 3,605 | 996 | 退職給与引当金 | 41 | 51 | 10 |
| その他資産 | 89 | 55 | △34 | その他引当金 | 13 | 16 | 3 |
| 動産不動産 | 81 | 100 | 19 | 支払承諾 | 736 | 86 | △650 |
| 繰延税金資産 | 34 | 21 | △13 | 本支店勘定 | 3,123 | 3,976 | 853 |
| 支払承諾見返 | 736 | 86 | △650 | 持込資本金 | 2,451 | 2,443 | △8 |
| 貸倒れ引当金 | △18 | △18 | 0 | 繰越利益剰余金 | 480 | 530 | 50 |
| 本支店勘定 | 114 | 105 | △9 | 当期末処理分利益金 | 530 | 639 | 109 |
| | | | | (内当期利益) | 50 | 109 | 59 |
| | | | | その他有価証券評価差額金 | (359) | (36) | 323 |
| 合計 | 7,895 | 10,001 | 2,106 | 合計 | 7,895 | 10,001 | 2,106 |

損益計算書

(単位：百万円)

| | 2024年1月～12月 | 2025年1月～12月 | 増減 |
|------------|-------------|-------------|------|
| 経常収益 | 540 | 595 | 55 |
| 資金運用収益 | 445 | 275 | △170 |
| 役務取引等収益 | 63 | 264 | 201 |
| その他業務収益 | 32 | 56 | 24 |
| その他経常収益 | - | - | 0 |
| 経常費用 | 503 | 424 | △79 |
| 資金調達費用 | 223 | 78 | △145 |
| 役務取引等費用 | | | 0 |
| その他業務費用 | | | 0 |
| 営業経費 | 280 | 346 | 66 |
| その他経常費用 | | | 0 |
| 経常利益 | 37 | 171 | 134 |
| 特別利益 | | | 0 |
| 税引き前当期利益 | 37 | 171 | 134 |
| 法人税及び住民税 | (13) | 49 | 62 |
| 当期利益 | 50 | 122 | 72 |
| 前期繰越利益金 | 480 | 530 | 50 |
| 利益準備金積み立て額 | | | 0 |
| 本店への送金 | | 13 | 13 |
| 当期末処分利益金 | 530 | 639 | 109 |

パキスタン・ナショナル銀行本店に係る事項

1. 当行本店の概要

イ.当行設立の経緯及びパキスタン国内経済の現況

当行は1949年政令第19号 National Bank of Pakistan により国営銀行として設立され今日に至っておりますが、近時は一部民間の資本も導入され、パキスタン中央銀行の株式保有は約 75%に低下しています。当行はもともと、パキスタン国の農業経済(主として麻・綿花)の成長に必要な金融を目的として設立されました。その後パキスタンの経済発展に伴い、活動分野を拡大して今日ではパキスタンの大手国立商業銀行としてフルバンキング機能を果たしております。2022年5月より、レーマン・アリ ハスニが頭取兼CEOに就任しております。当行では、国内金融サービスを大幅に強化、2025年12月末現在、パキスタン国内で1,503の支店を展開するとともに全国に1,540台以上のATMを設置し、利便性の高いサービスを提供しています。

パキスタン経済は、ウクライナ戦争後のサプライショックを起点とするインフレ率上昇、その対応での金融引き締めで大きく落ち込み、輸入物価上昇による外貨準備減少に対する懸念から為替相場も下落しました。2022年4月、シャバズ・シャリフ氏が首相に就任、2022年6月から8月には歴史的な洪水被害が発生し、経済は大打撃を受けました。その後、インフレ率は、2023年5月には38%まで高騰しましたが低下傾向にあり、2024年4月以降は10%台で推移、インフレ鎮静化により、今後の景気回復が期待されます。国内GDP成長率は、2023年度のマイナス成長からプラスに転じ、2024年度は2.5%、2025年度は、2.7%が予想されております。パキスタン取引所の100指数につきましても、2024年12月31日の111,351.17ポイントから2025年12月22日の171,204.00ポイントに上昇し、パキスタンにおける経済の良好なトレンドを示しています。

ロ.最近のトピックス

直近のハイライトすべき業績

“Agriculture Bank “ in Pakistan Banking Awards 2019-2020

“Best Bank for Agriculture Award “ – by Pakistan Banking Awards

“Best Trade Finance Provider in Pakistan-by Global Finance Magazine

ハ. 大株主の状況

(2024年12月末)

| 株主名 | 株主数 | 保有株式数 (千株) | 発行済株式数に対する 保有株式の割合 |
|---|--------|---------------|-----------------------|
| 1. State Bank of Pakistan (Central Bank) | 1 | 1,599,846 | 75.20% |
| 2. Government Holding | 3 | 8,575 | 0.40% |
| 3. Associated Companies, undertakings / related parties, and NIT and ICP | 2 | 983 | 0.05% |
| 4. FI, Non-Bank, Insurance Company and Mutual Funds | 78 | 97,477 | 4.58% |
| 5.Public Sector Companies and Corporation | 6 | 93,104 | 4.38% |
| 5. General Public (Local / Foreign, and others) | 15,965 | 327,526 | 15.39% |
| 6. Directors and their spouse(s) and minor children | 2 | 2 | 0.00% |
| TOTAL | 16,057 | 2,127,513 | 100.00% |

ニ. 店舗網 (2025 年 12 月末)

パキスタン国内： 1,503

| | | | | | |
|--------|---|------------|---|---------|---|
| 海外支店 | ： | 14 | | | |
| | | 日本 | 2 | ドイツ | 1 |
| | | 米国 | 1 | 香港 | 2 |
| | | バーレーン | 1 | 韓国 | 1 |
| | | バングラデシュ | 3 | アフガニスタン | 1 |
| | | パキスタンオフショア | 1 | サウジアラビア | 1 |
| 駐在員事務所 | ： | 3 | | | |
| | | 中国 | 1 | | |
| | | カザフスタン | 1 | | |
| | | ウズベキスタン | 1 | | |

ホ. 当行が対処すべき問題

1) IT 分野の強化

IT 分野の強化は、銀行の将来性を展望する上で核となるものであり、全支店のさらなるオンライン化や ATM 網を拡大し、より有効かつより効率的な IT インフラ構築に向けて、システムの高度化に努めております。

2) リスクマネジメントの強化

当行はパキスタン最大の銀行として、パキスタンの安定的な経済発展を担う役目を認識し、リスクマネジメントの強化を図っております。よって、エグゼクティブ・リスク・マネジメント コミッテイー(ERMC)を新設するとともに、アセット・ライアビリティー・コミッテイー(ALCO)、クレジット・コミッテイー等とその管理を強化するとともに、外部コンサルタント会社からのレビューも取り入れております。

3) CSR(コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ)への積極的な取り組み

良き企業市民の一員として、当行は積極的に教育、医療含む様々な社会活動への参加や自然災害時の支援等を行っております。

4) 更なるコンプライアンスの強化

当行は、ニューヨーク連邦準備銀行 (FRB)、ニューヨーク州金融サービス局 (NYDFS)、NBP のニューヨーク支店の米国規制当局と合意。 契約には、過去のコンプライアンスプログラムの弱点とコンプライアンス関連の強化の遅れに焦点を当てた合計 5,540 万米ドルの罰金が含まれます。 不適切な取引や故意の違法行為の発見はありませんでした。 なお、2025 年に当行は、ニューヨーク支店の閉鎖を決定しております。

2. 当行本店の営業状況

* パキスタンルピー・日本円換算レート JPY1.00=Rs.1.75 (2024年)
 JPY1.00=Rs.1.75 (2025年)

イ. 貸借対照表

(単位 百万円)

| | 2024年12月 | 2025年12月 | 増減 |
|--------|-----------|------------------|----------|
| 現金・預け金 | 179,879 | 214,822 | 34,943 |
| 貸出金 | 802,644 | 764,422 | (38,222) |
| 有価証券 | 2,637,057 | 2,814,198 | 154,311 |
| 総資産 | 3,854,186 | 4,044,798 | 190,612 |

ロ. 損益計算書

(単位 百万円)

| | 2024年12月 | 2025年12月 | 増減 |
|----------------|----------|------------------|-----------|
| 経常収益 | 662,979 | 486,167 | (176,812) |
| 経常費用 | 630,339 | 437,094 | (193,245) |
| 経常利益 | 32,640 | 49,073 | 16,433 |
| 当期純利益 (税引前) | 32,640 | 49,073 | 16,433 |
| 一株あたり | YEN 6.98 | YEN 22.84 | 15.86 |

ハ. BIS 自己資本比率

2025年12月末 26.21%

*Moody's の格付け：Caa1(Long Term) S&P の格付け：無し

“AAA” Long Term by credit rating agencies in Pakistan (VIS Credit Rating Company/Pakistan Credit Rating Agency)

3. 直近の2営業年度の貸借対照表及び損益計算書
貸借対照表

(単位 百万円)

| | 2024年12月 | 2025年12月 | | 2024年12月 | 2025年12月 |
|--------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
| 現金預け金 | 179,879 | 214,822 | 預金 | 2,208,693 | 2,530,095 |
| コールローン | 50,654 | 45,447 | 譲渡性預金 | | |
| 買入金銭債権 | | | コールマネー | | |
| 商品有価証券 | | | 売渡し手形 | | |
| 金銭の信託 | | | 借入金 | 1,107,290 | 965,518 |
| 有価証券 | 2,637,057 | 2,814,198 | 外国為替 | | |
| 貸出金 | 802,644 | 764,422 | その他負債 | 278,273 | 241,799 |
| 外国為替 | | | 貸倒れ引当金 | | |
| その他資産 | 153,633 | 167,333 | 退職給与引当金 | | |
| 動産不動産 | 35,561 | 38,576 | 特別法上の引当金 | | |
| 支払承諾見返 | | | 負債計 | 3,594,256 | 3,737,412 |
| 本支店勘定 | | | 資本金 | 12,157 | 12,157 |
| | | | 資産再評価差額金 | 67,491 | 71,637 |
| | | | 利益準備金 | 46,940 | 47,227 |
| | | | 繰越利益剰余金 | 138,584 | 176,365 |
| | | | 内当期利益(税引後) | (151,44) | (49,073) |
| | | | 小計 | 285,172 | 307,386 |
| 合計 | 3,859,428 | 4,044,798 | 合計 | 3,879,428 | 4,044,798 |

損益計算書

(単位 百万円)

| | 2024年1月～12月 | 2025年1月～12月 |
|------------|-------------|-------------|
| 経常収益 | 662,979 | 486,167 |
| 資金運用収益 | 622,795 | 446,377 |
| 役務取引等収益 | 40,184 | 28,873 |
| 引当金(△) | 2,573 | 10,917 |
| 経常費用 | 630,339 | 437,094 |
| 資金調達費用 | 524,830 | 304,309 |
| 役務取引等費用 | 105,509 | 132,785 |
| 経常利益 | 32,640 | 49,073 |
| 特別利益 | | |
| 特別損失 | | |
| 税引前当期利益 | 32,640 | 102,733 |
| 法人税及び住民税 | 17,496 | 53,660 |
| 当期利益(税引後) | 15,144 | 49,073 |
| 前期繰越利益金 | 123,440 | 137,783 |
| 固定資産再評価調整金 | 461 | |
| 当期末処分利益金 | 138,584 | 175,400 |

* パキスタンルピー・日本円換算レート JPY1.00=Rs.1.75 (2024年)
JPY1.00=Rs.1.75 (2025年)

以上